



未来に向けて

2020年の東京オリンピックにおける食材の話題もあり、有機生産者にさまざまな企業からオファーが来るようになりました。有機・自然農業に理解のない企業は経営判断で簡単に方向転換し、これまで多くの生産者が振り回されてきました。

自然食ねっとは、石綿代表（「自然園いしわた農場」代表）を中心に生産者が互いに情報を共有し、技術の向上について語り合える場です。私たちは企業の考え方やオファーを的確に理解・判断し、大切なパートナーである生産者と将来への方向性のみならず、流通に関しても一緒に真剣に考えていきたいと思っています。生産者皆が主体性を持ち、有機農業の過渡期を乗り越え、ともに新たな未来を築きましょう。

自然食ねっと株式会社 専務取締役  
森 昭治

「ファームレター」Vol.08

2017年1月25日号（毎月発行）

発行／自然食ねっと株式会社

デザイン／株式会社ナシカ

文・編集／石川千晶 写真／浦岡伸行



自然園いしわた農場の情報を映像でご覧いただけます。

Shizenen Ishiwata Farm

# 自然園いしわた農場

食の安全を願う生産者のネットワーク

## 自然食ねっと

消費者や企業に有機作物や加工品を身近に感じいただけるよう、安定的でタイムリーな商品提供と的確な情報提供を行える体制の構築を目的として、有機生産者が中心となって設立いたしました。

〒039-4401 青森県むつ市大畑町新町 65-2 TEL: 0120-06-8313

◎自然農法商品のネット販売



www.fsec.jp

ふるさと21 検索

\*自然園いしわた農場の商品は上記サイトでご購入いただけます。



士と創る 小田原キウイフルーツ  
本物の味と香り。  
石綿敏久の笑顔

### 日本で初めて自然農法でキウイを栽培した先駆者

キウイフルーツを多く生産している南半球のニュージーランドと、赤道を挟んで反対に位置する北半球の日本。みかん栽培が盛んな地が、キウイの栽培に適しているという。石綿敏久さんは神奈川県小田原市で300年続く農家の15代目。有機農業を始めて30年、みかん、レモン、ライム、レモンライム、キウイ、梅、米など、自然農法で栽培する。キウイはみかんや梅に次ぎ、小田原で多く栽培されている果樹だ。昭和45年頃に県が栽培を促進し、山北町で栽培を開始。やがて久野を中心に、みかんの代わりに栽培されるようになった。農薬はもちろん肥料も使わない本物の自然農法の貴重なキウイは、甘酸っぱく爽やかでみずみずしく、皮ごと食べても安心な自然の味わいが魅力である。

小田原有機農法研究会の会長を務め、農作業、セミナーの講師、圃場視察や自然農法ツアーの受け入れなどに奔走する石綿さんの使命は、自然農法を広め、本物の農業と作物本来のおいしさを次の世代に継承していくことだ。

### 自然園いしわた農場の商品

化学合成された農薬や肥料は一切使用しない本物のキウイフルーツ



- キウイフルーツ  
(有機JAS認定 自然農法/無農薬・無肥料)
  - ・自然本来の味、健康でミネラルが豊富です。
  - ・無農薬なので皮のまま食べられます。皮には実に倍以上ポリフェノールが含まれています。
  - ・押して耳たぶくらいの柔らかさが食べ頃です。
- ※価格は時価。商品の詳細は「ふるさと21」サイト(www.fsec.jp)をご覧ください。

自然園いしわた農場 神奈川県小田原市久野

息子・信之さんは頼もしいパートナー



「自然園いしわた農場 石綿敏久さん」

## 大勢の仲間と自然農法で安全な作物を

人間同様、植物も免疫力が大事



いまから40年近く前、慣行農法でみかんを作り、農協へ全量出荷していましたが、丹精込めて作ったみかんの中身ではなく外観だけを評価する仕組みに疑問を覚えました。当時は農薬中毒で亡くなるみかん農家も多く、消費者が捨てる皮のために命をかけてみかんを作るのはおかしくないかと思ったのが、有機を始める最初の曲がり角です。

まず化学肥料をやめ、堆肥を発酵させる微生物農法でみかん作りを始めて5、6年、農薬の回数が半分になり、土が変われば害虫や病気も減ると実感しました。その頃、みかんが低迷したのを機に、日本に導入されたばかりのキウイを地域の若い人たちと一緒に栽培し始めました。最初から無

農薬で、肥料は有機質のものを使っていましたが、キウイが枯れる「かいよう病」という病気が畑の一部に出ました。肥料のやり過ぎが原因と当時すでにわかっていたため、有機の堆肥をすぐにやめ、それからずっと無肥料栽培です。慣行から有機、自然農法へと頭も畑もうまく切り替えられました。

無肥料栽培で10年くらい経ったときに、肥料が原因ならもう、かいよう病にかからないのではな

いかと考え、実験しました。思いきって、かいよう病にかかった枝を接ぎ木してみたのです。1年目は移らなかったのですが3年経てて実験したところ、移りませんでした。人間の体と同じで、自分が健康なら周りに風邪を引いている人がいても移らない、免疫力は大事だと確信を持ってました。

### 果樹園の草生栽培を開発



無肥料栽培は誰でもどこでもできる技術ではありません。同じキウイでも場所が変われば気候風土、地面が違います。いちばん大事なポイントは、その植物がその土地にあっているかどうかで、それを見抜くのに経験と情報が必要になります。誰でも簡単にできると思うと、たいへんな失敗をしてしまいます。その関係が化学的に解明されれば普及が進みますが、未知の世界です。

果樹園の下草に、ヘアリーベッチという豆科の牧草を生やしています。敷きワラ状に地を這って雑草を抑えてくれます。キウイが本来吸う養分を牧草が吸うのだから、牧草に肥料をやらなくてはいけなはずですが、土の中の多数の微生物たちが養分を作ってくると、最近わかってきました。

土が軟らかいことは自然農法の重要なポイントです。土の中に空気がたくさん含まれ、その空気を植物が吸って養分にします。微生物も酸素や窒素を利用して活発に活動するので、土が軟らかくなり、保温状態がいいのです。牧草も土地にあつたものを作物によって選ばなくてはならず、一律にはいきません。自然農法は放任栽培ではなく、ほったらかしとは違います。試行錯誤しながら研究していかないといい結果を導けません。

### 信念で続けた自然農法



私はおばあちゃん子で、小さい頃から「大きくなったらうちを継いで農業をやっていく」と洗脳されて育ちました(笑)。当然のように行った農業高校には似た環境で育ってきた農家の長男ばかりが集まり、3年間ずっと一緒に地域の仲間と勉強した体験は、自分の人生に大きく影響しています。

農業全盛の時代に農薬を使わずに農業をやっていくには、半端な気持ちではできませんでした。周囲と同じことをやっていたら精神的なプレッシャーも苦勞もなかったと思います。たとえば、除草剤を使えば15分か20分で終わる1枚の田んぼの雑草に1日も2日もかけ、田んぼを這って手で取っているのを見た地域の人は、「專業農家で忙しいくせに、あいつは何やってるんだ」と許せないわけです。自分の生き方や考え方に信念を持つていなかったら、周りのその目に負けてしまいます。でも、いまは違います。自然農法は環境によく、食べても安心だと周りの人が理解してくれています。昔はただの変り者に過ぎませんでしたけれど。

### 収量ではなく仲間を増やしたい



肥料や農薬を使う慣行と、無農薬で有機質の肥料を使う有機、無肥料の自然農法の3種類のキウイをビンに入れて常温で保存する腐敗実験を始めて10年以上経ちます。自然農法のキウイは形が残って匂いもせず、カビも生えていません。慣行農法のキウイは2、3年で液体状になって形がなく、ひどい匂いがします。無農薬で有機肥料の有機農法のキウイも途中で腐り、匂いもします。栄養をたくさんとりすぎると成人病や糖尿病になってしまう人間の体と同じで、安全な食べ物でも食べ過ぎてはいけません。そこには生きがいを感じます。



左から、慣行、有機、自然農法(石綿さん)

農薬や肥料を使わない農法を農業高校の仲間や若い人に教えてあげたいという思いがあります。食べて安心、農薬で寝込まず、自分も安全です。完璧な無肥料栽培以上の農法は世の中になんとも思いません。地域の産業として、自然農法の仲間が増えていけば、自分が苦勞してやってきた甲斐があります。そこには生きがいを感じます。

## 「石綿信之さん」人を雇えるまで面積を広げたい

手伝うのと仕事としてやるのでは見方が違い、就農した当初は苦勞しました。植物相手なので奥が深く、何か一つわからないことを理解し導き出すには長い時間がかかります。ようやくわかったときは嬉しいものです。それが技術になり、さらに新しい技術を生むのが楽しく、やりがいを感じます。

高校、大学と工業関係の学校に通い、たくさん技術を学びました。その技術を応用し、圃場管理、剪定、収穫後の作業の流れ、土壌の水分量など、自分で課題を見つけ、考えたことを自由にやらせてもらっています。辛い時期を超え、何でも経験して時間をかけて積み重ねたからこそ、いまがあると思います。父が苦勞して結果を残しているのを見ていましたから、息子があとを継がないのはどうかという思いがありました。私も人生をかけて結果を残そうと覚悟を持って臨んでいます。

全国的に中間山地が高齢化し、耕作放棄地が増えています。一昔前は限られた面積でどれだけ収量を上げられるか、見た目のいいものを作るかを重視していたかもしれませんが、いまは少ない労力でどれだけ広い面積を維持していけるかが重要だと、私はそう思います。

有機や自然農法は一般的な農業技術だけでは難しく、さまざまな分野の技術や価値観を混ぜて、失敗しながら挑戦して進めていかないと可能性が広がっていかないと思います。多様な人材を雇って知恵を生かしながら、どんどんチャレンジして圃場の面積を大きくしていきたいですね。就農して5年半、やりたいことがいっぱいありすぎて大変です。

